

# 令和7年度 第4回美濃加茂市総合教育会議 会議録

## 1 開会日時及び場所

令和8年2月26日(木)午後3時45分から午後5時00分まで

美濃加茂市生涯学習センター 2階203会議室

## 2 出席者

(美濃加茂市)

市長 藤井 浩人

(教育委員)

教育長 梅村 高志

委員 武田 由美

委員 渡邊 博栄

委員 安藤 摩里

委員 榎間 月絵

委員 中西 東峰

(同席者)

副市長 丸山 克彦

企画経営部長 石黒 幸治

(事務局)

教育委員会事務局長 渡辺 明美

学校教育課長 明星 裕

施設対策監 丹羽 泰成

教育センター次長 佐伯 好洋

教育総務課課長補佐 太田 文生

## 3 欠席者 なし

## 4 開会 午後3時45分

## 5 議事日程等

(1)市長あいさつ

(2)会議録署名者の指名

(3)協議事項

○令和8年度予算編成重点方針に沿った事業について

(4)報告事項

○美濃加茂市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

○その他

# 会 議 録

## (1)市長あいさつ

藤井市長

皆さん、こんにちは。大変お疲れのところだと聞いておりますので、要点だけしっかりとやらせていただきながら、今年度最後になると思います第4回総合教育会議を始めさせていただきたいと思っております。

まずもって、今年度もいよいよ卒業式も迫ってまいりました。この1年間、教育委員の皆様方には過分なるお力をいただきまして、美濃加茂市の子どもたち、そして教育関係をしっかりと支えていただきましたことに、この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございます。また、今年度は途中での教育長の交代ということで、梅村教育長には大変お世話になっておりますが、引き続きよろしくお願ひしたいと思っております。

この総合教育会議も定期的に行う中で、マンネリ化しないようにと考えております。常に意識していきたいことは、教育は教育関係者だけで完結するのではなくて、全ての社会インフラをしっかりと子どもたちに提供していく、子どもたちを支える状況にあるかを確認しながら毎日を前に進めていきたいという思いです。

今日は、4月からの新年度に向けて美濃加茂市がどういった政策に特に力を入れていくかということをお教育委員の皆様方にも知っていただき、それぞれの事業と教育の関連性、または一見、教育とは関係のないことかもしれませんが、私は全ての事柄が子どもたちや子どもたちを取り巻く環境、そして保護者の皆様に影響していると感じておりますので、いろいろな方のお知恵をいただきながら、教育との関連性を作っていきたく思っております。そういった視点から、皆様方からいろいろなご意見をいただきたいと思っておりますし、また来年度に向けてお持ち帰りいただいて一つ一つの事業について、皆様方からのチェックや、追加でのご意見を賜っていただければと思っております。

少しご紹介させていただきますと、今回、卒業式が中学校・小学校行われます。教育委員の皆様にはご出席いただいている卒業式や入学式ですけれども、今のお話も含めて今年度の卒業式において、特に小学校は私と教育長だけでは当然行ききれませんので、各部長と副市長とも分担して全ての小学校に市の幹部を出席させることとしています。それは、ただ卒業式を見てほしいという話ではなくて、そこで PTA の方や学校の先生から、もしかしたら市に対して何か注文とかお願い事のようなことを聞ければ、それはラッキーでもありますし、様々な校舎や体育館の整備等も今行っておりますが、そういったことも直接現場で確認する機会もなかったのかなという反省もありますので、そういった形も含めて我々行政の関係者も学校の方に直接出向いていくという機会を作っていきたく思っております。

これまで、橋渡し役をまさに教育委員の皆様方にやっていただいておりますが、この機会をうまく利用していただいて、副市長や各部長が知らないことばかりだと思いますので、皆様方からもご説明や解説、またご意見等も賜りながらいい関係を作っていきたく思っておりますので、その点についてもご紹介をさせていただきます。

それでは会議も始めさせていただきたいと思いますので、今日もよろしくお願いいいたします。

## (2)会議録署名者の指名

藤井市長 はじめに会議録署名者ですが、梅村教育長にお願いしたいと思いますが、皆様、よろしいでしょうか。

梅村教育長 はい。

藤井市長 よろしくお願ひします。それでは会議録署名者に梅村教育長を指名いたします。

## (3)協議事項

### 令和8年度予算編成重点方針に沿った事業について

藤井市長 続きまして協議事項に入ります。令和 8 年度予算編成重点方針に沿った事業についてです。

皆さんお手元の資料を見ていただきながら、長くなると疲れてしまいますので、要点だけご紹介していきたいと思います。よろしくお願ひします。

毎年作っております「見たい知りたい今年の予算」ということで、学校現場でも活用いただけるような機会を我々からどんどん提案していかないといけないのかなと思いますが、この「見たい知りたい今年の予算」を作ったのが渡辺直由市長の時、美濃加茂市の財政状況を市民にしっかり理解していただいて、必要なもの、そして残念ながら切っていく予算、こういったこともすべてオープンにしていこうというところで20年近く前にスタートされた取り組みです。当時は全国的にも珍しく、大きな賞もいただいているというのがこの予算の説明資料になっております。それをずっと引き継いでおりまして、できるだけ見やすく子どもたちが手に取っても分かりやすいような資料とさせていただいております。

その中で、私も改めて任期を迎えることができましたので、市役所として、特に職員として大切にしてもらいたいこと、組織として大切にしていることとして、「孫子の代まで住み続けたい街」を経営理念としています。何かの意思決定で迷ったときは常にここに立ち返ってもらいたい。目先の課題は当然ありますけれども、迷ったときは常に未来を見据えて未来志向の判断をしてもらいたいということで、この孫子の代というところを重要視しております。

そして同時に、それを実現するために経営方針というものも掲げておりますが、行政というのはありとあらゆる分野にまたがっておりますので、福祉だけ教育だけということが難しい中で共通として考えられることとしては市の職員の皆さんには一歩踏み出すというチャレンジ精神を忘れてほしくない。そして、行政が問題を解決するという発想から、市民の皆さんお一人お一人が課題を解決していくんだという主体的な意識を持ってもらうために、市民一人一人を、人と未来、そして世界につないでいく。これが市役所行政の大きな役割ではないかということで、この経営方針を掲げております。

これまでと変わっておりませんが、新年度も大切にしていきたい大きな2つの理念と方針になっております。

注目すべき点は、令和7年度が美濃加茂市過去最大の266億円でしたが、それを少し下回って263億円ですが、ほぼ同額です。これは物価高騰等もありますし、年々特に福祉に係る予算が大きくなっていることと、建物の更新、美濃加茂市であれば市役所の建て替えとかです。そういった大きなプロジェクトを控えておりますので、こういった予算が大きくなっております。

こんな感じで、たった10年で50億は優に超えて、80億、100億ぐらい予算規模が大きくなっております。この263億円の中には当然、国や県の予算も入ってきておりますので、全てが市民の皆さんの税金というわけではないということは、市民の皆さんに説明するときにはいつも気をつけております。

そういった中で、令和8年度に力を入れることとしましては、1つ目のテーマが「人の未来をつくる」。そして、次のページですけれども、「人の流れを作る」。この2つを重視しております。美濃加茂市は総合計画と総合戦略の大きな2つの計画を持っておりますが、地方創生から出てきた、この地域が生き残っていくためにはどうすればいいのかという、総合戦略の方を大事にしています。「人の未来をつくる」と「人の流れをつくる」。この2つを大事にしております。いろいろ書かせていただいておりますが、未来をつくる教育に力を入れていくことが未来をつくることになるということであったり、あとは、一人一人の市民が健康であることが非常に重要ですので、この健康というものの位置づけも人の未来をつくるということで、特に予防医療等に力を入れていこう、健康政策に力を入れていこうということなんかを事業化することにつながっております。

次のページ、「人の流れをつくる」。これは、移住等も含めてなんですけれども、美濃加茂市は交流を大事にしてきましたので、この交通の要所という強みを生かして、新たな交流をこれからも創出していこう。これは企業を誘致するとか、そういう産業の話だけではなくて、美濃加茂市が持っている里山、河川などの自然と歴史、文化、そして外国人の方々との共生をはじめとした多文化、こういったものをより一層活かしていくことで人の流れを作っていくということ。

そして最後の4つ目が、とはいえ今時代はどんどん変わっていますので、今の時代だからこそ新たにチャレンジできることにもしっかりと向き合っていこうということで、このDX、デジタルトランスフォーメーションというものにも力を入れていこうと考えております。

そういった大きな方針を掲げる中で、具体的な事業というものをこの次のページから書いております。

これは教育委員会の方でも説明があったかもしれませんが、空調整備をやっていこうと。高市政権からも、改めて国の予算をしっかりと出していくという方針をいただいておりますので、国の交付金等を使いながら中学校、小学校、あとはここには書いておりませんが、その他にも皆さんの近くにある牧野交流センターとか西体育館も災害時の防災拠点にもなるということもしっかりと抑えて、全ての施設にエアコンを導入していこうということを今回の予算に入れております。中学校は令和9年度中に完成、小学校等は令和10年度に完成しま

すので、残念ながら今年の夏は乗り越えなければいけないということをしっかりと説明しながら、市民の皆さんの期待に応えていきたいと思っております。

これと、教育委員の皆さんにはあえて説明しますが、今、新庁舎の建設においてプラザ中体を取り壊して違うところに移設するというお話をしております。これについては、これからスポーツ関係者の皆さんや利用者の皆さんにしっかりと丁寧に説明していくところですが、プラザ中体が一時使えなくなるということに対するご批判は多くなると思います。その時に各小学校、中学校の体育館にエアコンを入れることで、これまではプラザ中体しかエアコンがなかったのですが、皆さんの近くの小学校、中学校の体育館を積極的に開放していく中で、今までとは違う環境で活動を継続してもらえるとということも、しっかりと説明してご理解をいただいているという思いも持っておりますので、少し覚えておいていただけるとありがたいです。

続いて、教育の2つ目です。学校風土をしっかりと見える化しようということで、学校風土 D 調査というものを蜂屋小学校で導入いただいております。蜂屋小学校からも良い報告をいただいておりますので、子どもたちにとって居心地の良い場所であるための調査をしながら改善をしていこうということで、この調査を導入していきます。

続いて、民間企業からの人材受入れということで、今、美濃加茂市役所には富士通から2人、オイシックスという野菜で今すごく伸びている会社から1人、デザイナーの会社から1人、日本郵政から1人いただいて、美濃加茂市役所の中を活性化していただいておりますが、来年度は教育現場にベネッセさんから2人派遣していただくことが決まりました。この後、予算等は必要ですが、企業とは約束ができましたので、そういったお力をお借りしながら学校現場の先生方の強みをもっと生かしていけるように予算化しております。ちなみに、この人件費等は国からの予算もしっかりもらえますので、美濃加茂市としてはこの企業連携を引き続き大事にしていきたいと考えております。

続いて、今年度積極的に取り組んでいただいた部活動の地域展開についてもまだまだやるべきところがたくさんありますが、そういった中でアプリを導入することで指導者や保護者との連携をしっかりとしていこうと。指導者、保護者、地域の連携をアプリを使ってきめ細かくやっていこうということで導入しております。

大きく教育に関することはこの辺りですが、せっかくなので全部簡単にご紹介していきます。

そのほか新たに取り組むこととしまして、令和7年度には、看護師さんをはじめとする医療人材がこれからは一気に足りなくなっていくということが言われている中で、美濃加茂市内またこの可茂地域の医療機関に働いてくださる方々に、奨学金をお支払いしていこうという取り組みを進めておりますが、さらに令和8年度は、看護だけではなくて介護人材の不足解消に向けても、こういった補助を開始するというを書かせていただいております。

続いて産後ケアにつきましては、これまで赤ちゃん訪問を母子保健推進員さんにやっていただいていたんですけども、さらに高度な専門知識を持っている助産師さんが直接赤ちゃん訪問をすることで、いろいろな発見があるということが他の自治体でもみられておりますので、人件費等についてはちょっと高

くなってしまうんですけども、直接助産師さんに回っていただいて、特に美濃加茂市は外国籍のお母さんが孤立しているという状況がいくつも見られておりますので、そういったときにきめ細かい対応を赤ちゃんのうちからしていこうという施策になっております。

続いて、5歳児健康診断についてです。これについては今6歳児健診を全国的にも行っておりますが、小学校に入る直前に6歳児健診をすると、そこで初めて保護者の方がご自身の子さんの発達の悩みとか課題をオープンにされるという機会があって、そうすると時間を待たずして小学校への入学につながっていくんですけども。保護者の方や関係者の方々と意見交換をする中で、それを1年前の5歳児、要するに年中さんの時にしっかりと面談を含めた健康診断を行うことで、発達の遅れに対する対応であったり、小学校の進学について特別支援学級を選ぶのか、普通の学級を選ぶのか、そういった時にも時間的猶予を保護者の方々と共有することが大事なんじゃないかということなど様々なメリットがあるということで、先進的に5歳での健康診断を行うということを今回取り入れました。

あとは、公園等の遊具も古くなってきております。前平公園にもさらに追加で新たな遊具を入れておりますが、新年度は中部台パークの遊具が更新されるということになります。

交流についてですけども、今年度、「チョイソコみのかも」というものを導入しまして、これはAIデマンドバスです。特にあいあいバスは、北部の小学校に通うお子さんたちも使っていただいているという現状もあるんですけど、このAIデマンドバスも、ただの福祉の利用ではなくて、これから子どもさんたちも保護者の方と利用することも含めて様々な生かしてもらいたいなどということもあるので、現状は平日の9時から4時が使えるという状況になっておりますが、今後はさらなる拡大も視野に入れながら、あいあいバスの活用ということを考えていきたいと思っております。同時に、あいあいバスですけども、現在、美濃加茂市内を中心に走っておりますが、今後は加茂郡の近隣の町とも連携しながら路線を検討していきたいという段階にありますので、また皆様方からもご意見賜ればと思います。

続いて、今年度、子どもたちが地元企業やものづくりに関心を持てるようにバスツアーを開催しましたが、新年度は市としても予算をつけてバスツアーを行っていこうということで、大々的にやっていきたいと考えております。

次に堂上蜂屋柿。生産量が今年は例年よりも多くて、年間6万5千個。例年は5万個ぐらいを生産者の方々には目標にさせていただいております。それでも、生産量は増えておりますが、生産者の方々は減っております。そういった中で、地域の特産品、そして文化である堂上蜂屋柿をしっかりと維持していくために、この加工所の整備に対して費用を補助していこうということで、ちょっと大きな予算がついております。

続いて、坪内逍遥大賞です。隔年で美濃加茂市と早稲田大学で開催しておりますが、今年度は早稲田大学で開催されましたので、次の年は美濃加茂市で開催されます。第21回を迎えますので、また皆様方にはご案内と発表前にお知らせがいくと思っておりますけれども、何卒よろしくお願ひしたいと思っております。

続いてDXについて。これは全国的に珍しい取り組みなんですけれども、10月に市議会議員の改選がありますので、その際の選挙において電子投票を実施しようということで、今の議会で条例の改正を提案しております。おそらく議会の方から賛成を得られると踏んでおりますが、20年前に可児市で一度実施してうまくいかなかったという事例があって。タブレットやインターネットの技術が確立されてきて、これから一気に全国的にも進んでいこうと言われておりますが、美濃加茂市としては岐阜県でおそらく初の実施になるのではないかなと思っておりますので、こういったことも積極的に取り組んでいきたいということでご理解いただきたいと思っております。

続いて、女性のデジタルスキル習得支援講座です。これは高市政権でもデジタル分野の人材が圧倒的に足りなくなるということが言われております。そういった中で、特にデジタルスキルと女性の相性がいいんじゃないかということがこの数年言われております。そういった中で企業のお力を借りながら、今回は女性に特化したデジタルスキル習得支援講座を国の予算を活用しながらまず実施してみようということでこういった講座を設けております。1人当たりの予算が大きな講座なんですけれども、その分しっかりと習得できると就職とかご自身で何かビジネスをするときに非常に有意な技術を得られるということです。今回は社会人を対象に行いますが、今後はこのデジタルスキルというものを子どもたちにどう展開していくかということも考えていきたいと思っております。

続いてがスマホ市役所です。今、美濃加茂市はスマホ市役所を皆様方にご協力いただいておりますが、新年度は特に外国人の方々がスマホ市役所を利用できるようにAI機能を導入した翻訳をやっていきたくて考えております。これもまた特に保護者の方々や関係者の方々の感想なども聞き、積極的に改善に力を入れていきたくて思っております。

最後ですけれども、学習環境の充実ということで公衆Wi-Fiを積極的に導入していきたくて考えております。新年度は、特に高校生中学生の利用がある東図書館の公衆Wi-Fiを導入します。これにより学生の皆さんも通信料を気にせず、タブレット等での学習ができるのではないかなと考えておりますので、よろしく願いたいと思っております。

これだけが新年度事業ではなくて、これまで取り組んできたことも事業として引き続き継続していきます。これまでの取り組みに対しても皆様方からは改善等のご意見をいただければと思っております。ただ、特にこの新年度事業については、この時代に合わせて様々な挑戦をしていきたくて思っておりますので、実施する中で皆様方からのご指導を賜りたいと思っております。

ただ、これらの事業については、議会での審議で可決されてから始まりますので、ご理解をいただきたいなと思っております。

ざっとご紹介をしましたが、この内容に限らず新年度に向けて皆様方から何か教育だけではなく、行政全般についてご意見とかご質問等いただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

補足をせっかくなんで梅村教育長からいただいて、皆様方からお一言ずついただければと思っております。

梅村教育長

特に、重点の中に教育に関わるポイントがございました。よく私たち教育現場で言われる言葉に、「教育は人なり」「環境が人をつくる」、すなわち今回の重点はまさに人と物の部分の両面を強化する施策になっているなどということ。それからいわゆる「不易と流行」でございます。脈々と流れる教育が譲れない、大事にしなければいけない子どもたちの心の部分の育成と、デジタルに代表される、その時代の変遷を象徴する流行の部分の強化というものの絶妙なバランスを大事にした予算編成になっているというふうに私の立場では受け止めておるところでございます。また皆さんのご意見を頂戴できればと思います以上です。

藤井市長

新たな梅村教育長の体制の中で、いろいろ意見交換をさせていただくことと教育に期待するところがこれからさらに大きくなっていくことを想定しながら、とはいえ教育委員会の人の限界もありましたので、市としましては、教育委員会全体の職員数をもう一度増やしていこうということと、組織体制におきましても、私の権限で先に教育委員の皆さんに私の考えとしてお伝えしようと思うんですけども、今、美濃加茂市役所としましては市長がいて、副市長、そして教育長がいるわけですけども、行政のトップは部長職があるんですよ。以前は教育にも部長がありました。でも、このコスト削減も含めて、組織をスリム化していく中で、今、教育の方は教育長がいて、その次は事務局長を含めた課長さん2人がいらっしゃるんですけども、そういった中で全体の市役所の業務を横断することを考えると、課長ではなく部長職を設置するべきではないかという議論をこの数年してきました。私も、もう4年任期をいただきましたので、新年度からは教育委員会の方にもまさに石黒部長のような部長職にも来てもらって、横の関係、市民協働部であったり産業振興部であったりとか、この他のこともしっかりと議論ができるような組織づくりをもう一度していきたいと私は思っております、そういったことも含めてこれから4月に向けての組織改革や人事も着手しております。4月になってこうなりましたということ、皆さんには発表できればなと思っておりますが、そういった思いも含めて予算とかだけじゃなくてマンパワー、人にも力を入れて教育委員会をしっかりとバックアップしていくことを考えておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

そういったところで、今、教育長のお話をさらなる追い風としていけたらと思っておりますのでよろしく願いいたします。

皆様方から一言ずついただいきたいなと思います。初午も間もなくになりました中西先生からいただきたいと思います。忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしく願います。

中西委員

来週の日曜日が初午になります。またどうぞぜひ来てください。私は裏方の方ですので来ていただきましてもお会いできないかもしれませんが。

私は前の古川教育長からお願いされたときに、大変高齢でございまして、どうしてもみんなの意見とは言いつつも偏ったことになると言いながら座らせていただき、自分が学ばさせていただいている。

特に今ありました中で、やはりこの6歳児のところあたりが一番、早くご自身のことは気がつくというか、特別支援の子がたくさん増えてきているわけですが、やはり、親が気がつかずに6歳になってからしか気がつかないという場合には後手後手に回ってしまうのが、こうして5歳児の健康診断とかで分かり、また親の方も早めに心の準備というか、将来向かっていることができていくので、本当にいい支援をいただいて喜んでおります。

その他は本当に教育については、また今日もサポーターの方がたくさん入ってくださっている学校があって、下米田の方もたくさん入っていただいて、子どもさんたちと仲良くしています。子どもさんたちも先生一人ではとても回っていかないところ、先生も喜んでいただけるし、また子どもさんたちもサポーターと仲良くなって先生に聞けないところも聞いたりして、そういった事で来ているサポーターの方々も、それはそれで子どもさんたちと触れ合っているととても喜んでるので、いい意味での商売ではないですが三方良しというか、みんなが喜んだ時間、楽しい時間を持っているので、ああいうことがさらに広がっていったらいいなと思っております。現場からそのようなことでよろしく願います。

藤井市長

ありがとうございます。

渡辺委員

大変わかりやすく予算のご説明等をいただきましてありがとうございます。

やはり、経営理念とか方針というところで言われましたけど、未来というところ、先を見るというところにつなげようという意思が大変よく分かる内容だったかなというふうに思いました。また、予算編成につきましても、「未来」と「流れ」というキーワードがあったかと思えますけれども、それをもとに大変よく整備されているなという感想を持ちました。

そんな中で学校の施設の改修等大変お金がかかるんですけども、そういった整備に目を向けていただいて本当にありがたいなというふうに思います。今年度はたまたま7月頃でしたっけ、大変暑い時期に学校訪問させていただいたんですけど、暑くて大変だった分、本当に子どもたちがどういう環境で運動したり学んでいるかというところを身をもって体験できたんですけど、そういう整備が進んでいる学校の中では大変快適、完璧ではないかもしれないけど、もしそれがなかったら本当に健康を壊すんじゃないかというぐらいの環境の中で子どもたちが生活しているところもありまして、そういったところを進めていただけるということが本当にありがたいことだと思いました。

それ以外にも、教育の分野で、金額の多い少ないは検証がこれから必要だと思うんですけども、特に私が感銘を受けたのは、先進的であったり先駆けて取り組もうという内容が非常に多くて、そういったところが要は投資というか予算を使う中で、より投資的な側面が強いのうですかね、人を育てていい効果を得ようというような、そういったのが感じられる予算内容だなというふうに感じました。限られた予算の中ではありますけれども、そういった投資的側面にも目を向けていただいて、よりこれから良い未来につながるよう進めていただきたいなというふうに思います。

藤井市長

行政サービスを考えたときに、消費か投資かということをやっぱり天秤にかけて、困っている方にはしっかりと支援をしていかなければいけないですけど、どこかそうじゃない方針も明確にするのが昨今かなと思う中で、やはり投資というものには新年度予算も力を入れてきましたので、そういったお話をいただけるとありがたいです。

また、市民の皆さんや関係者の皆さんとも何が投資で、これはちょっと無駄遣いなんじゃないか、無駄遣いと消費は違うんですけども、未来に投資することをできるだけ優先的に臆せずやっていくということを大事にしていきたいと思います。

いろんなことに挑戦しているということについては、市の職員さんたちは正直、激務で辛いところもあって本当に大変なんですけれども、やはり挑戦するとなるとそれだけ勉強をしたり情報を取ったりとか、いろいろなところでコミュニケーションを取らなければいけない。それが結果的に市にとっての大きな財産にはなっているのかなという実感はあるので、ここも疲弊しない程度に、でも挑戦することは忘れずにやっていきたいなと思っています。

武田委員

とにかく空調設備が整うというお話を聞いて、体育館は本当に熱い中だったので、今年は無理かもしれませんが、皆さん本当に喜ばれるだろうとすごく思います。また、これが連携してプラザ中体がなくなった後に、多分、体育館の開放、開放する時の条件や運営も大変かもしれませんが、その辺りがスムーズにいくといいなというふうに感じました。

あと、人材交流で人材受け入れとか、多文化交流という言葉があったと思うんですけど、美濃加茂市は多文化ということが、今日も古井小学校が来年度1年生は30%がフィリピンの子たちだという話を聞きましたし、学校現場でも多文化が当たり前になってきている。日本人の子たちにとってプラスになるんですけども、その子たちが大変なバックグラウンドを持っている子たちが多くて、そういうところで教育委員会の皆さんたちが各課いろんなところと連携してやっていていただいている、その子たちを支えてくださっているというところをすごく感じるのありがたいと思っています。その子たちのキャリア教育などさせて頂いているんですけど、人材不足で介護とか看護とかその子たちが将来、多分ここ美濃加茂に住んでいる子どもたちのおばあちゃんとか老人の方たちが介護を受ける世代になっていくので、そういう人たちに対しての介護ができるような人材になっていく年齢の子たちがたくさんいるので、そういう流れを作っていくのもいいのかなと感じながら聞いておりました。これから介護とかいろんなところですごく人材不足にもなってきますし、外国の方たちの助けを外から借りるのも大事ですけども、ここで育てていくっていうのも非常に大事なことはないかなと感じています。

特に私は東図書館のWi-Fi入る事が嬉しくて、こことか上古井交流センターでいろいろ学習支援やったりするときにWi-Fiがなかったので、徐々に入っていくのかなと期待しながらうかがっておりました。

藤井市長

Wi-Fiは、これからはインフラだと思っていますので、どんどん導入していきたいなと思いますのでよろしくお願いします。

多文化については、皆さんもお感じになられていると思いますけど、美濃加茂市は武田さんをはじめ皆さんの力で三十何年やってきたんですけど。ちょっと国が方向転換を見せ始め、どちらかという風当たりを感じるような状況にもなってきているので、変な風を受けないように我々としては言葉を選びながら、でもやっぱり一人一人の市民の皆さんと向き合うということ、そして、これまでの経緯を大事にすることを重視していきたいと考えています。

その中でちょっとフライング気味にはなりますが、今考えているのは、今は外国との接点、多文化というのはまちづくり課の中に多文化推進係というのがあるんですけども、これをもう少し引き上げる。例えば教育現場、福祉現場、キャリア教育、またこれから国の方針によっては、また違う国籍の方が多めに入られてくるかもしれませんので、その対応も含めて横断的に活動する必要が出てくる可能性が非常に高まっていますので、市役所として多文化共生についての位置づけを引き上げていきたいと考えております。そういった中で、教育現場の皆さんとの連携も、また違うフェーズに入ってくるかなと思いますし、引き上げる以上はより力強く後押ししていける環境づくりに向けていきたいと思っておりますので、また新年度からのスタートに際していろいろとお話とかご提案を賜りたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

安藤委員

経営方針の「一歩踏み出し、市民一人一人を人と未来と世界に繋ぐ」ということで、人が動くことがすごく大事だということをおっしゃって、それを私もずっと思っています。人が自分で全部自分たちのことをやっていけば、行政に頼ることがなくなってきますよね。本当に困っている人たちにはもちろん手を差し伸べなきゃいけないと思うんですけども、最近は楽をしようという人が増えてきてるんじゃないかなという感じがありまして。例えば働くことに関しても、大変な仕事よりも楽な仕事がしたいとか、楽で収入が多くなるのがいいとか。そういう声を聞き始めると収入を多くするにはもっとスキルアップしよう、先ほどのDXもそう、教育じゃないですけど、そういう人を子どものうちから教育で育てていかなきゃいけないんじゃないかなということを感じています。そのためにも、今、PTAがどんどん簡素化していくっていうのはあると思うんですけども、それを本当はやっぱり自分たちでやっていくのを子どもが見た方がいいんじゃないかなと思う。ただ、今は親御さんたち皆さんお忙しいので、なかなか難しいのかもしれないですけども、そういったことをすごく感じます。

あと、私は子育て中のお母さんたちと接する機会が多いので、そこで感じるのが、本当に子育てに関してイライラしてしまう人がすごく増えているなど。昔だったら、笑って過ごせるようなことが、ちょっと兄弟喧嘩してるだけでもちょっとイライラするっていう。そこで、産後ケアの体制っていうのはもちろん、小さいうちのケアもなんですけども、もうちょっと大きくなってからもそういうところが相談できるような場所があるといいなど。今、リオラさんがそういうところになってると思うんですけども、働きたいというのが本当に収入が欲しいよりも子育てから離れたいから働きたいというのが多くて、その相談もすごく多いのも気になって。それが例えば、小さいうちに家での会話が少なくて言葉が少なくて、学校の教育についていけないというのが実際出ていると思うので、そこでもうちょっとうまくなると、教育の方にもそれこそこの5歳児健診のところ

でもっと早く「もっと家で会話しましょう」みたいな感じができるのかなと感じます。

藤井市長

そうですね。いろいろと大事な質問をいただきましたけど、1つ目にいただいた、努力する人が報われないような姿が子どもたちには見せるべきではないし、逆に言うと、この前も古井小に行って子どもたちと話したんですけども、実は自分たちの周りにはすごく頑張ってくれる大人がたくさんいるんだみたいなことを私の前で披露してくれたんです。そういう姿こそ学校の協議会ははじめ、地域とのつながりの中で、子どもたちにあるべき大人の姿を示していかないと。スマホには、短期的で面白くて過激なものばかりに引きずられてしまう傾向があるので、ここはやっていきたいなと思います。

先ほど、PTA という話があって、ちょうど今週ですかね、どちらかという思いのある自治会長さんが意見を言う場を毎月のように作っているんですけど、そこで、この前開催したときに大学1年生の子に、地域や自治会や町内会のあり方について研究して発表してもらったんですよ。そしたら、自治会長さんたちからは、こういう大学生がもしあれば僕らはありがたいけど、こういう子たちはレアだからねってなったんですけど、大学生の方から今はこういう高校生や大学生がたくさんいるんだという話もいただく中で、意外と身近に、活動したいけどまだ場がないとか、活動する力はあるけど機会がないっていう中学生、場合によっては小学生もいらっやと思うので、そういう PTA、子ども会、自治会や場合によっては消防団、こういったものにうまく学校の皆さんと協力して少しでも体験してもらおうとか、大切さを学び、そしてその経験の中でのやりがいとか意味を知ってもらうのは大事だなと思うので。それをやってこなかった世代が私も含めてあるんじゃないか。私も市議会議員になって初めて見えるものが広がって反省することが多かったんですけど、今の若い子たちは受け入れられる土壌があると思うので、こういったことはぜひ学校現場にもいろいろお力をいただいて、連携できればなと思いました。

もう1つ、子育てに対するイライラ等についても、なかなかこういった声を拾い上げきれしていないという話を聞きますので、これこそ LINE とかをもっと使いながら声なき声をしっかりと拾って早め早めに対応していきたいと思いますので、またぜひ新年度に向けてよろしくお願ひしたいと思います。

榎間委員

いろいろな事があると思うんですけど、一番力を入れられているのはどういうところかというのが分かりました。全てが教育につながるということも思いましたし、特に赤ちゃんを初めて授かった保護者の人から、子育てって大切ということを伝えていってもらえるように最近では市役所の方でもなっているんだなというのを感じました。

スマホの画面で youtube とか子どもに見せるとおとなしいから、それが一番子どもにもいいし、自分もバタバタしない。ご飯食べに行ってもみんなで食事に来ているのに、1歳ぐらいの子の前に置いてこうやって座って、みんな静かにすることがいいって思ってしまう前に、やっぱりそういうところからスタートしていくということで、保健センターの方たちの一番最初のスタートのところから力を入れてくださっているなということが、助産師さんの訪問っていうのも、

実際は母子保健推進委員の方でも一生懸命やってくださっていたんですが、もう一歩進んで信頼して色々な事が相談できるっていうのがとても大事だなと思いました。5歳児健診についても、なるべく早い時点で子どもに寄り添う。さっきおっしゃいましたが、やっぱり子育ては大変だけど、大変は悪いことじゃない。大変だからこそ子育ては楽しかったり、子どもの未来がしっかり見れたりするものだし、大変な時期を一緒に楽しみましょうというふうになってくればPTAとかそういう活動についてもやってもらえるんじゃないかなというふうに感じました。

スタートのところはそうだし、今一番難しいなと思うのが、自分で生きていこうと思う力のつく中学生の段階で、部活動というのは子どもを育てるための大事な場所だったと思うんですね。だから、先生が大変力を入れて、時間も生徒指導上の問題などもそこで解決していってもらったり、悔しいことやつらい事もそこで乗り越えていけたっていう、そういう時代がずっと続いていたと思うんですけど。今地域展開になったことはすごく大事だと思うんですが、すごい二極化していて、保護者でそういう場所について行ってくれるおうちとそうじゃない子。中学校なら自分で行って自分の力でやっていくことが出来たけれど、今は、そういう運動をすとかそういうことも親に助けしてもらえないとできない。お金もかかる。自分で選び取っていけない子どもが増えている気がします。そこで差がないように、今ちょうど地域展開の境目にあると思うので、このアプリというのがどんなふうに子どもたちに良い方向につながっていくのか、自分の力で保護者に手伝ってもらわなくても自分でやれると思うような、そういう展開になれるような、その中で人間関係を作ったり、ちょっとハードル高いところも超えていけるような力を入れていける。クラブに入れる子と、それをやりたいと思ってもそこには入れないと、何かこう苦しいとか乗り越えることができないままということのないように、中学生が時間をそこに使って足りるべき内容のものを地域の中でぜひ作って環境を整えてあげたいなというふうに思います。ここに上がってくるのは大きな力だなと思いますのでお願いしたいと思います。

藤井市長

まさに放課後ですよ。部活動の地域移行もそうだし先ほどのスクールサポーターの方々もそうですけど、今回のアプリは、たった一歩に過ぎないと思うんですけど、もっと地域の方々の力をお借りできるように引き出していくために何ができるかということ、今の技術を使ったり場所を作ったりとか様々なやり方があると思う。これから動き出すと思うので、またいろいろと変化はあると思いますが。

今回、私も改めてご挨拶できていなかったんですけど、選挙をやる中で1つ、特に力を入れて強くメッセージとしてお願いして発していたのが、これからも言い続けていこうと思うんですけど、子どもの放課後の時間が格差が広がってしまっていて、学校に行く行かないも含めて、本当に夕方に子どもたちが、夫婦共働きを推奨する政府の中で、子どもが習いごとにいけているお子さんと、学童に渋々行って自分では何をすればいいのか見つけられないお子さん。あまりにも差があるんじゃないかなという中で、もう少し子どもの貴重な時間という

のを社会としてもどうやって育んでいくのか、これはやっぱり大事だと思うので。

中学校においては、部活動の地域展開をより充実したものにしていきたいと思いますし、場合によっては学童のあり方もまだまだ考える余地があると思いますので、地域の皆さんのお力をお借りして。地域で昔はもっと学校が終わったらランドセルを置いて遊ぶというイメージがあったんですけども、今はまさにそんな光景が見られなくなりつつあるので、安心できる環境をどう作っていくのかハード面もそうですし、地域の方のお力をいただく機会もそうです。場合によっては習い事とかそういったものの距離をもっと縮められる美濃加茂市であれば、あの子は習い事いけるけど私はいけない、だからこれができないという格差もなくていけるんじゃないかなと思うので。どういった人たちが子どもたちの周りにはいるのかということも把握しながら、子どもたちの放課後の時間というのを主として大事にしていける、これがまさに未来への投資になっていくんじゃないかなと思う。これはあくまで学校の先生方に負担をさらに上乗せする話ではなくて、学校と地域が協力するというこの形になってくると思うので、図書館とか学童といっても、外国籍の方も民間の方が見てくださることもある。でも、なかなか行政は踏み込めていない。それ以外にもいろんな方々が子どもたちの支援をしてくれていますので、こういったことを本腰を入れてやっていきたいと思いますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

そういった場所が私はお寺であってもいいのかもしれないなと思っておりますし、企業さんであってもいいのかなと思っていますので、また皆さんと力を合わせていきたいなと思っています。コメントをそれぞれ皆様いただきました。ありがとうございました。

せっかくなので丸山副市長からも。

丸山副市長

今日、予算の話ということですけども。渡辺委員からもありましたけども、未来への投資、本市は総合計画の中で教育を重点的に掲げて、その教育部分の実行計画として教育振興基本計画があるんです。今年度から進んでいるわけですけども明星先生に頑張ってもらった。自分が思い描く幸せな未来を創造していく子、自ら創造していく子。非常に未来志向の内容になっているという事ですよ。

この計画を見ると、僕も美濃加茂に来て2年目ですけども、素晴らしい計画が出来ていると思っています。やっぱりこれを実直に実現していくということが必要なんだろうと思っていて、そのための予算も、不十分であるかもしれないけれども、用意していただきました。それから体制の部分ですよ。やっぱり教育って広義の教育、学校教育だけではなくて社会教育含めた教育ですけども、本市の場合は教育委員会が学校教育を持ちながら、補助執行という形で社会教育の部分は市長部局の職員に見守らせているという体制をとっているがゆえに、この必要な情報が途中で落ちこちたりとか連携をできなかったりとかそういったこともこの2年間見受けられてきました。そういった部分もありますので、さっきの教育委員会の体制をもう一度見直してですね、横串を刺して俯瞰して教育全体を見れる体制を強化した上でこれを推し進めることが、今、本市には求められているかなと思っています。

ここに来て思うんですけど、本当に教育って地方のものだと思っているんですね。やっぱり国から見ている部分と市民を目の当たりにして担う部分っていうのは非常に違った思いがあって。先ほどの学校の先生方だけではなくて地域で子どもたちを育てていくというようなことが大事だと思っていて、何より地域の子どものことを一番よく知っているのはやっぱり学校の先生であり地域の大人たちであるんで、そういった知恵やいろんなことを協力いただきながら育てていくというような体制を、こういった計画とかいろいろな推進体制、予算を使いながら来年度に向けて進めていければいいなと思っています。

藤井市長

ありがとうございます。

皆さんお疲れだと思いますので、協議事項は以上にさせていただきます。

#### (4)報告事項

美濃加茂市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

藤井市長

では、報告事項をお願いしたいと思います。

明星学校教育課長

報告事項ということで、業務量管理・健康確保措置実施計画というものを今からご説明申し上げます。公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律、つまり通称で給特法と呼ばれるものでございます。その給特法というものが改正をされているということになります。

給特法の改正ということにつきましては、令和7年6月18日に交付されて、令和8年4月1日から施行されるということになっております。その給特法の一部改正の中に書いてある内容については、教育委員会及び学校現場に直接的に関わるものが多くて、例えば主務教諭という新たな教諭を作るというようなワードであったり、先生等の時間外手当と呼ばれる教職調整額っていうものが今月に本報の4%だったのが段階的に引き上げられ、10%になっていきますよというものであったりとか。学級担任は月に3千円の特別手当を支給しますよという内容など、様々なものが改正されてくると。その中の1つとして、教育委員会に課せられた義務というものがございます。その義務は何かと申しますと、業務量管理・健康管理確保措置実施計画を策定しなさいということですよ。策定をして、きちっと学校現場の教職員の働き方というものについての管理をしなさいよというところが義務として課せられてきた。また、この法律に書いてあるものについては、これは教育委員会の中で管理をするものであるんですけども、その状況については、随時ホームページの中で公表しなさいと。また、あるいはこういった総合教育会議の中で必ず状況、進捗というものを報告しなさいというものがこの法律の中に明定された内容でございます。それをバックボーンとしながら、計画を策定しました。

具体的にはこういった内容です。そもそも、この先生等の働き方改革というものは何のために行われるのかというと、大きく2つしかない。1つは学びの専門職と呼ばれる先生方なんだけれども、その先生等の資質能力を向上させていく時間的、空間的ゆとりというのを確保しなさい。あともう1つは、児童生徒一人一人としっかり向き合うことができる、本来的な職務を果たすことができ

る状況にしないよ、というところが目的でございます。こういったことについては突き詰めていくと、美濃加茂市の教育のより一層の振興。したがって、私たちの位置づけは先ほど教育長さんとお話しされましたが、教育振興基本計画の中に書いてありますが、働き方改革のアクションプランとしてこの計画を作り上げていきますという立ち位置を考えております。したがって、この計画につきましては、計画期間を第3次教育振興基本計画の最終年度である11年度、つまり令和12年3月31日を計画期間として計画を作りました。また、その後につきましては、改訂をしながら作っていくという状況でござい

ます。  
じゃあ、実際にどういった計画の立て付けになっていくかと申しますと、まず、目標値としてはプレゼンに書いてある通りです。時間外勤務、上限を超えて勤務しているとき。指針に書いてある上限というのはひと月に45時間です。この上限を超えている状況の先生は、令和6年度最も多い月で半数以上なのを、11年度はゼロにしていきたい。2つ目は何かというと、やはり去年のデータですけれどもストレスチェックで高ストレスと判定された者が教職員の中で4.9%、約5%いるという状況になっている。それを0%にしたというように、KPI目標値を掲げながら私たちは取り組んでいきたいという計画でござい

ます。  
じゃあ、実際に何をしますかということが細かく書いてありますけれども、この内容については、文部科学省が示している学校と教師の業務の3分類というものがござい

ますので、この3分類の学校以外が担うべき業務、教師以外が積極的に参画すべき業務、そして教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務、ということで棚卸しをさせていただいて措置内容というものをこの中に詳しく書きました。この3分類に基づいて計画実施をしていくんだけれども、教育委員会だけではなく、市長部局、いろんな課とも連携を図りながらやり、また先ほどお話しした地域の皆様であったり、保護者の皆様に協力していただく。つまり、チームとしてこの計画を進めますというところが基本コンセプトになって

います。  
なお、策定をしましたが、教職員ないしは地域学校協力活動を一体的に推進している学校運営協議会ないしはPTA総会であったり様々な場で、いろいろと啓発をしていき、先ほど申しましたKPIを達成していきたいと思

藤井市長

何かご質問等ございましたら。

1ついいですか。前段階の給特法の改正については、何か現場で来年度から変わることはありますか。その主務教諭の話とか。

明星学校教育課長

主務教諭については、県の方針で設置はしません。来年度については見送るという方向は明らかになっています。そして、1月1日から学級担任の手当は発生しています。教職調整額につきましては、段階を追って来年度以降徐々に上がってくるということで、学校現場ではすでに変わっているという状況です。

藤井市長

ありがとうございました。そのほかご質問等は良かったでしょうか。

あとは委員さんの中から何か全般、何でも構いません。ご意見や何かよろしいですか。

榎間委員

この話は定例会でお話していただいたんですが、その時に「教師以外が積極的に参加する業務」とかそういうところに、どの程度踏み込んでいけるかっていうところがより美濃加茂市らしさっていうのが出てくるかなと思う。内容に関して特別に予算というか経費がかかるものがたくさんあると思うんですね。先生以外のところでやっていこうと思うと。

このままだと中で回していただくになるので、分担というか、どこかをならすとか。だから、例えば博物館の最後の戸締りを外部の人をお願いするとか、体育館の施錠をまわりの人をお願いしているとかのように、学校も人に頼んでやってもらう予算がつくとか、そういう事があればより進むのではないかなと感じますが、市としてはいかがでしょう。

藤井市長

私自身把握ができていないので。どうですか、今のお話で教員の負担軽減という中で市として何か新年度を取り組む、または検討したいと考えているようなことなどあれば、せっかくなのでよろしくお願いします。

明星学校教育課長

予算につきましては、今回の議会の中で決定をすることになっておりますけれども、来年度についても人的な配当については本当に配慮していただいて、支援員等の配置については今進めているような段階でございます。

加えて施錠の管理等につきましては、検討するというのが書いてありますので、来年度以降の検討材料として、あくまでもこの計画自体が11年度までの期間を持っていますので、その都度検討しながらやっていくというような状況になります。

藤井市長

今後、その後もチェックしながら。

榎間委員

ぜひ、いろんな事業支援の人達の予算が教育委員会により多く当てられるといいと思います。

藤井市長

教育委員会の体制の強化を新年度目指しますが、同時に現場の方もこういった方がいらっしゃれば先生の負担が軽減できるなどありますし、我々としては体育館の話もしましたが、学校開放の方を広くやってほしいという思いもある中で、それにあつた人の配置とか、導入すべきことも出てくると思いますので、ぜひ教育委員の皆さんから厳しいチェックをいただきたい。

明星学校教育課長

最後に一言だけ言わせてください。

無尽蔵に財源があるわけではないという状況だと思うんです。市としていろいろ折衝をしていただいて、次年度以降の措置をしていただいておりますが、私自身で考えなければいけないのは何かというと、今、地域が共同活動ということで、学習サポーターがいろんなところでボランティアとして参加していただいている。つまり先ほどお話しさせていただきましたけれども、地域の方々

がこういったことにも参画をしていただけるような、そういった状況をこれから作っていかねばいけないというふうに感じておりますので、今ほどの意見も私たち承りながら違う方向でもいろいろと画策をしていきたいと思えます。

藤井市長

はい、ありがとうございます。ぜひ、活用できる体制作りをお願いしたいと思います。我々もしっかりとやっていきたいと思えます。

そのほかよろしいでしょうか。

今日は皆さん、非常にお疲れのところありがとうございました。今年度あと1ヶ月ありますので、どうかよろしく願います。

それではこれにて第4回の総合教育会議を閉会させていただきます。皆様ありがとうございました。今後もよろしく願います。

閉会 午後5時00分